

A. 「アカデミック・ジャパニーズの挑戦」PR編

B. 大学教育学会ラウンドテーブル報告

門倉正美

(横浜国立大学留学生センター)

kadokura@ynu.ac.jp

A AJの挑戦のPR

門倉正美・三宅和子・筒井洋一編

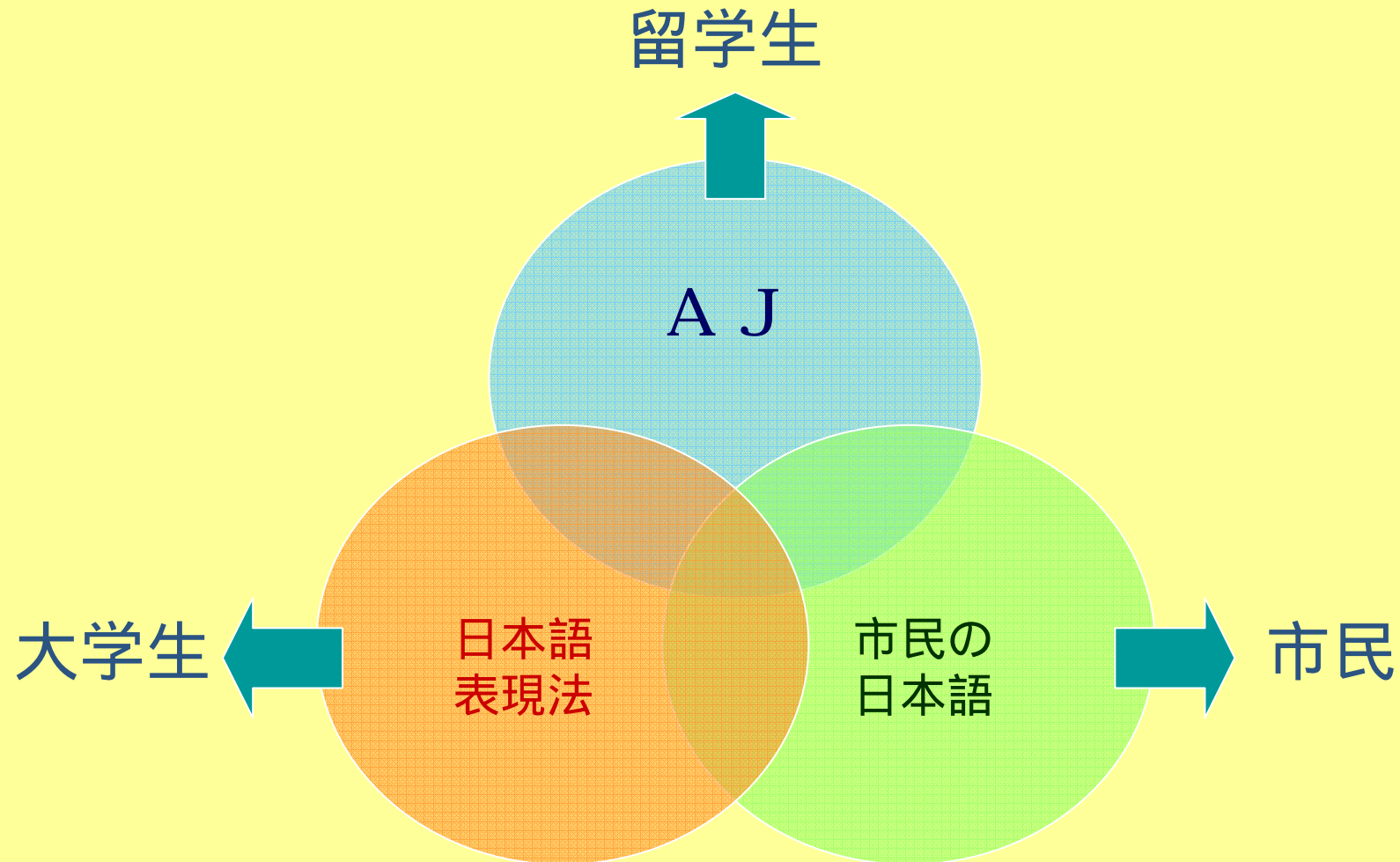
『アカデミック・ジャパニーズの挑戦』

ひつじ書房、2006年6月刊

「ことばの教育」(「学びとコミュニケーション」の日本語力を養う教育)は、留学生、日本人学生、市民に共通の課題である。

日本語教師は、「ことばの教育者」としてすぐれた資質をもっている(はず・べき)である。

A J、日本語表現法、市民の日本語



A J とは < 教養教育 > である

- ・ 問題発見解決学習 総合的学習・
吉田新一郎「< 学び > の技法」
- ・ 市民的教養 加藤哲夫「市民の日本語」
(ひつじ書房)
- ・ 門倉正美「教養教育としてのアカデミック・ジャパニーズ」
『月刊言語』 2005年6月号 参照

吉田新一郎の「< 学び > の技法」

- ・ 吉田新一郎「効果10倍の< 教える > 技術」PHP新書

これまでの教え方・学び方は「工場モデル」

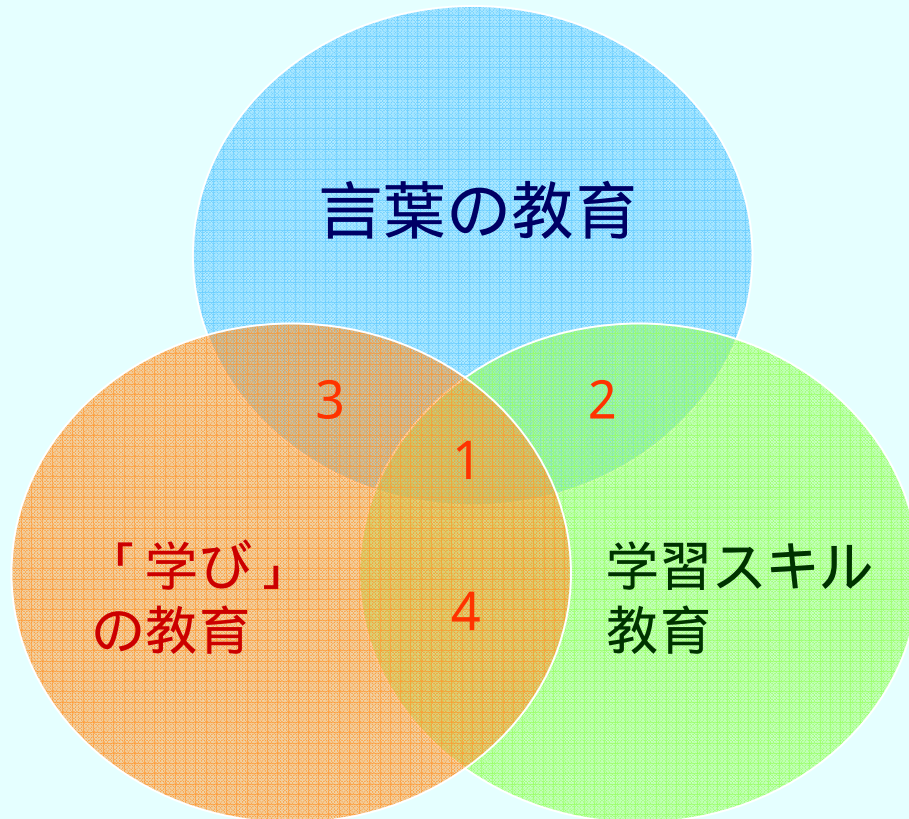
これからの教え方・学び方は「ワークショップ・モデル」

学ぶことをより楽しくする・想像力や創造力をかきたてる・
学習者を完全に巻き込む・学びのコミュニティをつくる・・・

- ・ 吉田新一郎「会議の技法」中公新書
- ・ 吉田新一郎「「学び」で組織は成長する」光文社新書

A J と合流する教育研究領域

- ・ 3つの領域がすべて重なる「1」の領域にA Jを位置づける。



言語の教育: 日本語教育、国語教育、
E SL(English as a Second Language)

<学び>の教育: 初等・中等教育における
「総合的学習」、高校の「現代社会」、
1990年代以降の「日本事情」教育、1990
年代以降の大学初年次導入教育

学習スキル教育: 英語圏のスタディ・スキル
教育、リサーチ法

2: アカデミック・ライティング、クリティカル・
リーディング、速読(スキミング、スキヤニ
ング)、プレゼンテーション法

3: 総合日本語、J SL(Japanese as a Second
Language)トピック型

4: クリティカル・シンキング、
メディア・リテラシー

日本語教員の3つの特長

1. 日本語を総体的にとらえる(教育内容)
2. インタラクティブ(相互作用的)な教授法に習熟している(教育方法)
3. 異文化間コミュニケーションをふまえる(教育姿勢)

B 大学教育学会ラウンドテーブル報告

- 2006年6月10日(土) 於:東海大学湘南校舎
ラウンドテーブル 「ことば(日本語表現法)に向かう仲間達」
- 筒井洋一(京都精華大学) 「言語表現」を国立大学の初年次教育に導入
- 吉倉紳一(高知大学) 高知大学で理系研究者の視点から日本語表現法に取り組む
- 加藤哲夫(せんだい・みやぎNPOセンター) 市民活動の実践経験から「市民の日本語」力のあり方について提言
- 門倉正美(横浜国立大学) AJの広がりと言語教員の特長

大学教育学会とは？

大学における教養教育のあり方を考える学会

- ラウンドテーブル でも「大学における「日本語表現法講座」の深化に向けて」が開かれていた。(昨年度もほぼ同じ状況)
- 今後の大学教育における「日本語表現法」クラスの重要性を示唆している。

大学で日本語表現を学ぶ意味とは？

- 大学での「学び」の基礎力を養う

ためだけでなく、

- 大学を出てから < 市民 > として自律する
ための素養を育てる